

佐久間中学校 制服、校則の見直しプロジェクト経過報告

R3.8.3

○1 学期末、新生徒会長が生徒会選挙の公約に掲げた、「制服、校則の見直し」について自分が関わってみたいと思う生徒を募集したところ、1年生から3年生までで13名の生徒が手を挙げた。その中から生徒会長が意見の取りまとめなどを行う、推進委員6名を委嘱した。経過は以下のようになっている。

○事前に、13名のプロジェクト委員は、googleclassroom<校則の見直し>に入り、新生徒会長から発信される制服や校則について、自分の意見をchromebookを通して送信するようにした。

- 1 7月27日……生徒会長から以下のような2つの設問を送信し13名の委員に意見を求めた。
なお、そのなかで、8月2日13時より学校において、意見の集約とまとめを推進員で行うように生徒会長からお願いした。

設問 1 「夢講座で理解できた性の多様性を考えた制服はどうあったら良いと考えますか？理由も付けて意見を述べてください。」

設問 1 「学校を適切な学びの場にするために、あるいは生徒一人一人が生きづらさを感じることなく過ごしやすい環境にするために制服はどうあったら良いと考えますか？理由も付けて意見を述べてください。」

☆意見の集約結果については、後半の資料で説明する。

- 2 8月2日……佐久間中学校、個別学習室Bにおいて、推進委員(当日出席5名(1名体験入学のため遅刻))で意見の集約とまとめ、方向性を検討した。
- 3 8月3日……校則についての見直しの資料として、佐久間中学校の校則を新生徒会長がchromebookでプロジェクト委員に送信した。
- 4 8月20日……設問2と校則の見直しについての意見集約を、この日の13時から個別学習室Bで6名の推進委員が集まって実施する予定。

<資料1:7月27日の制服の見直しの意見集約>

1 設問 1 について

- ・ズボンやスカート、リボンやネクタイどっちを着ても良いようにしたり、私服でも良いようにしたりしたいと思っています。そうすれば、男性だけどスカート履きたい人、リボンをつけたい人、女性だけどズボン履きたい人、ネクタイをつけたい人、そして制服自体を着たくない人なども生きづらさを感じる人が少なくなると思います。
- ・自分でたくさんの種類の制服から選べるようにしたら良い。なぜならそのほうが、「スカートが嫌」「ズボンが嫌」がなくなると思うから。
- ・意思の尊重ができるけど校則に反しない固定概念や偏見無い、選択性の制服がいいと考える。
- ・自由制。意見はいろいろだから
- ・制服のズボンやスカートなどを選択式にする。理由 男子だからズボン、女子だからスカートという指定や決め付けをなくすることができるから。
- ・制服を男子はズボン、女子はスカートと決めつけず、その人が着たい方を着るようにすれば不満がたまず良いと思う。
- ・生徒全員が賛成してくれる制服 たくさんの意見を取り入れたほうが良くなると思うから

2 設問 2

- ・どの生徒も自分の着たい服を選べるようにもっと自由になったら良いと思います。そうすれば今までの制服が嫌だった人も服装を気にせずに授業を受けることができたり、今までより過ごしやすくなったりして制服が嫌だから学校に行きたくないという思いの人が少なくなると思います。
- ・みんな同じにするのではなく、個性を尊重した制服にしたほうが良いと思う。なぜなら、色々な考えや感情があるということを学びながら、生徒が周りの目を気にせずに生きていけると思ったから。
- ・上記と同様です。
- ・上と同じ
- ・自分の個性に合うもの。理由 自分の個性に合うものなら一人一人が生きづらさを感じることなく学校生活をおくれると思うから。
- ・制服は自分で自由に選択できるようにして、自由に選択した制服を否定したりしない。
- ・選択性にする 性別と逆の制服を選ぶときに言いだしづらいと思うから

3 意見の集約

最初に設問1を集約するために、設問1の解答で設問2についての回答を以下に分類し整理した。

制服のズボンやスカートなどを選択式にする。理由 男子だからズボン、女子だからスカートという指定や決め付けをなくすることができるから。
制服を男子はズボン、女子はスカートと決めつけず、その人が着たい方を着るようにすれば不満がたまず良いと思う。
ズボンやスカート、どっちを着ても良いようにしたら良いと思います。そうすれば、男性だけどスカートを履きたい人、女性だけどズボン履きたい人なども生きづらさを感じる人が少なくなると思います。
自分でたくさんの種類の制服から選べるようにしたら良い。なぜならそのほうが、「スカートが嫌」「ズボンが嫌」がなくなると思うから。

以上の意見集約から(設問 1 の中に集約されなかった意見は設問2の方に入れてまとめていくことにした。)委員の意見を発表していった。

4 意見集約の方法

個別学習室Bに委員が集まり、それぞれが chromebook を開きながら、「校則の見直し」classroom に書かれている意見を「jamboard」に作成し、KJ法で意見をまとめていった。委員の chromebook を大型テレビにつなげて、大型テレビでも見られるようにして、jamboard に示された意見に対する感想や意見を出していった。写真参照

5 意見集約の中で出された委員からの意見

(1)設問1

・制服については、その存在をなくし、私服にすることについて、委員からは慎重にした方がいいとの意見(全員)だった。理由は、とんでもない私服に対して学び場として適切でなくなる恐れがあること、なんでも、自由にすると、逆に、自由でいることで、1 からすべて選択していくことの大変さや、服のチョイスで、人からいろいろと言われる心配が付きまとい、かえって生きづらくないのではという意見だった。

・また、制服を全て変えて、今風のものにすることについては、家庭の負担が大きくなるだけであるので、それは、適切ではないとのことだった。それよりも、今ある制服の選択肢を増やすことで今、生きづらさを感じている人の気持ちの軽減を図りたいという意見だった。

・設問 1 について、性の多様性について生きづらさを感じている人に対して、スカート、スラックスを選択制にして、どちらを選んでよいという方向で進めたいということになった。

・なお、スラックスについては、業者に複数のスラックスを用意してもらい、試着などしながら、スラックスについて、2 つくらいの選択ができるようになるという結論になった。

(2)設問2

・設問2については、主に、制服については、ネクタイやリボンを付け加えるかどうかというあたりと、制服をやめてしまって、私服とするかについてである。ただ、上記で記したように、委員からの私服に対する意見は否定的なものであった。

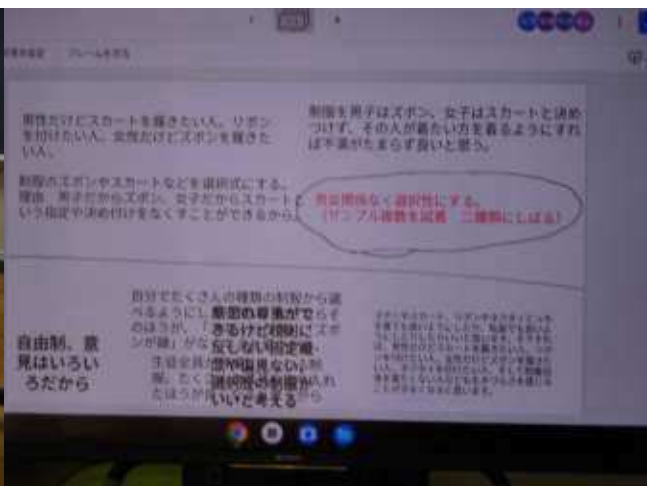
・ただ、制服の登校ではなく、体操服で登校はとか、靴下とか靴とかを含めて、あるいは、黒以外のセーター、ストッキング、リボンやネクタイといった、人とワンポイントが違うような装いができると学校という抑圧感が軽減するといった意見もあった。

・意見の中では、上記でも示したが、靴下や靴なども、自由では、学習環境という面においてひっかかる点があり、また、すべて選択することは逆に悩むことになるため、複数の選択肢の中から選ぶ形が一番今はいいと考える。例えば、靴下であれば、今は白だけだが、黒、灰色、紺など、靴も、白だけでなく、黒、灰色、紺などはどうかという意見があった。

・設問2の中で、自由(私服)についてもあったので、教師側から、月 1 回自由の日でもどうか？その日は、当然、制服で来てもいいし、体操服でもいいし、私服でも当然いい。そのために、自分たちいい環境にするために、ルールを作っていくのはどう？という話も提案してみたが、生徒は私服について、自由な服ということについては、関心を示していなかった。

・次回、8 月2日発出した、校則の意見集約と、この設問2について、意見を取りまとめていくことになった。

<写真:8月2日>



○1 回目のプロジェクト会議を経て、2 回目のプロジェクト会議を 8 月 23 日 1 時 30 分から個別学習室Bで実施した。以下にその時の会議録を示す。

※前回の議論を受けて、今回は、制服の後半部分(設問2)の協議を行った。前半については、前の報告書のとおりであり、性の多様性を鑑み、スカートとスラックスを選択制にしていくこと。また、業者にスラックスの見本を持ってきてもらい、試着して、その中から選択して決定していくこと。であった。

今回の後半(設問2)については、その他の意見について議論していく。たとえば、靴下、靴、セーターなどの規定や、私服についてなどである。

1 前回の議論の経緯

(1)設問2についての意見<性の多様性以外の制服に関する意見>

- ・どの生徒も自分の着たい服を選べるようにもっと自由になったら良いと思います。そうすれば今までの制服が嫌だった人も服装を気にせずに授業を受けることができたり、今までより過ごしやすくなったりして制服が嫌だから学校に行きたくないという思いの人が少なくなると思います。
- ・みんな同じにするのではなく、個性を尊重した制服にしたほうが良いと思う。なぜなら、色々な考えや感情があるということを学びながら、生徒が周りの目を気にせずに生きていけると思ったから。
- ・上記と同様です。
- ・上と同じ
- ・自分の個性に合うもの。理由 自分の個性に合うものなら一人一人が生きづらさを感じることなく学校生活をおくれると思うから。
- ・制服は自分で自由に選択できるようにして、自由に選択した制服を否定したりしない。
- ・選択性にする 性別と逆の制服を選ぶときに言いたしづらいたいと思うから

(2)協議録

- ・設問2については、主に、制服については、ネクタイやリボンを付け加えるかどうかというあたりと、制服をやめてしまって、私服とするかについてである。ただ、上記で記したように、委員からの私服に対する意見は否定的なものであった。
- ・ただ、制服の登校ではなく、体操服で登校はとか、靴下とか靴とかを含めて、あるいは、黒以外のセーター、ストッキング、リボンやネクタイといった、人とワンポイントが違うような装いができると学校という抑圧感が軽減するといった意見もあった。
- ・意見の中では、上記でも示したが、靴下や靴なども、自由では、学習環境という面においてひっかかる点があり、また、すべて選択することは逆に悩むことになるため、複数の選択肢の中から選ぶ形が一番今はいいと考える。例えば、靴下であれば、今は白だけだが、黒、灰色、紺など、靴も、白だけでなく、黒、灰色、紺などはどうかという意見があった。
- ・設問2の中で、自由(私服)についてもあったので、教師側から、月 1 回自由の日でもどうか？その日は、当然、制服で来てもいいし、体操服でもいいし、私服でも当然いい。そのために、自分たちいい環境にするために、ルールを作っていくのはどう？という話も提案してみたが、生徒は私服について、自由な服ということについては、関心を示していなかった。
- ・次回、8 月2日発出した、校則の意見集約と、この設問2について、意見を取りまとめていくことになった。

2 8月23日会議録

(1)靴下の規定について

①色……黒、紺、灰色、白

②その他…基本は無地とし、ワンポイントは可とする。

○色を自由になると、靴下の色によって、見ている側が不快に思ってしまう環境となるなど学習環境としては適さない環境であるため、今日的に常識的な色を選択肢とした。選択肢を設けないと自分で学習環境に合うものを選択しないといけないが自信がない人が多いし、そのことで頭を悩ますことは適切ではない。

(2)靴

①運動靴とする。

○色の指定まで検討したが、部活動においていろいろな色の靴をすでに履いていること、また、高等学校においては、靴の指定をしていないが、特に問題が起きていないことを考えると、色については、特別指定をしなくても、問題になることはないと考えた。

(3)登下校の服装について

・意見の中で、体操服での登下校を認めて欲しいとの意見について協議をした。プロジェクトでは、制服について、親が高額の費用をかけて制服を購入したことを考え、できるだけ制服を着る日を確認しないとイケないとなった。ただ、部活動の終了した後、部活動の時間を確保したいが、着替えることで十分な時間が確保されていることに鑑み、登校時は制服、下校時は制服か体操服を選択する。としていきたいとなった。体操服で登下校という意見について応えた形となった。

(4)リボンやネクタイをつけたいという意見に対して

・リボンやネクタイをつけたいという委員からの意見に対しては、同じ意見を示すものは多くなかったが、制服のオプションとして、リボン、ネクタイが可能であるかどうか、業者に聞いてみることとなった。もし可能の場合、登下校や授業はリボン、ネクタイをつけることは可とするが、行事については、リボン、ネクタイを外すこととする。(ただし、入学式については、リボン、ネクタイをつけてもよしとする)これらは、リボン、ネクタイを買わない家庭への配慮である。

(5)ベストについて

①紺色、黒色、白色、クリーム色、茶色、深緑色などのベスト、セーターを着用可とする。

色の指定がなくてもいいのではと質問したが、派手になり、見る側が不快に感じるような色目は避けたいとの議論であった、また、今までの規定では、紺など…とあり、などがあまりにも漠然としてい過ぎたため、選択の範囲が明瞭となるよう色を指定していきたい。

その他

議論されたこと(生徒の意見)

・どこまで多様性を許容すればいいかという問題があるが、何でも自由というのではなく、生徒が「生きづらさ」を感じているものを中心に見直しを図ることを視点としていった方がいいのではないかと。
・体操服で登校ということが「生きづらさ」を感じている意見なんだろうか？体操服は、運動するための服装であり、制服は正式の場にふさわしい服装。TPOにあわせて着ていくことが大切だと思う。しかし、体操服で登校というのも理解できる。朝登校時、慌ただしい中、走ってくることが多い。これは、どちらかというと運動に近い。また、部活動の後、着替えることで、部活動の時間が削られてしまっ

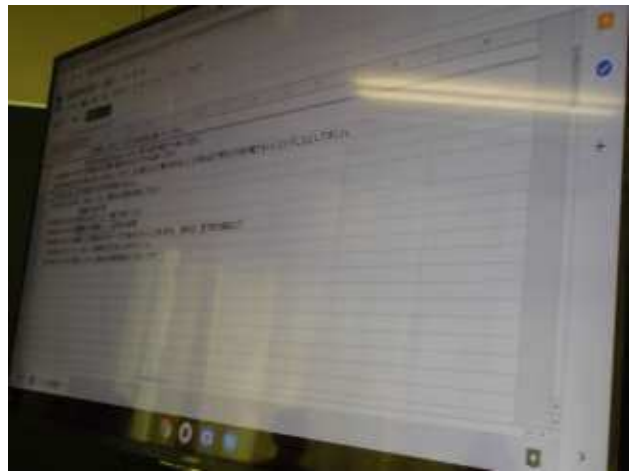
- ・している。部活動の時間を確保するためにも、下校時については体操服というのは効率的だと思う。
- ・きちっとした服装、みんな一緒の服装というものに、一種の「生きづらさ」を感じる生徒もいると感じる。その点についても、考慮する必要があるのではないか。ただ、社会に出た時、周りの意見に合わせることを必要とするときもあり、自分だけ個性的なものという考えを押し通すことは適切ではないと思う。
- ・選択制のものを増やしていくことで、上記の問題について、少し解決を図ることができないか。例えば、「月、水、金は制服登校。火、木は体操服と制服の選択」など、自由度を上げていってもいいかもしれない
- ・私服については、私服にすることで、何を着ていくか、あるいは、この服を着ていくとどのようにみられるかなど、過度のストレスがかかることになり、私服は賛成できない。

「校則の見直しに関する」意見集約

8月23日制服・校則見直しプロジェクト	運動靴や体育館シューズの色を自由性
体操服での登下校を認めてほしい。	もっと詳しく具体的に記さないといけない。
靴の色は白以外でも良いと思う。 靴下は黒や紺色でも良いと思う。 防寒具は自己判断で着用するようにすれば良いと思う。	体操服での登下校 紺色以外のセーターを着ても良い したい
靴を白色しかだめというので、白い靴だと足と靴が合わないことがあるので黒などの色の靴でも良いということにしてほしい。	運動靴や体育館シューズの色を自由性
校則というか、昼休みの時間を伸ばしてほしいです	服装などの関係のものを一つでも変えたらいいと思います。(例えば、登下校の服装など)

<雑感>

・生徒の中で「私服」の議論が行われたが、1年生は私服について肯定的であったが、2,3年生は否定的であった。理由は、普段着ているのが、家でも体操服だったり、部活動の練習着だったりして、自分の個性を(服で)表現しようとするのに慣れていないのが明らかになった。1年生は小学校時、私服で学校生活を送っているため、その違和感がないが、中学校生活に慣れてくると、私服に対して違和感を持ち始める。これは、大きな課題であると感じている。学校で指定した服装が個性を潰している。あるいは、その感覚を麻痺させている。自分の個性を表現することへの動機づけをどこかでしっかりやってあげないといけないように思う。「今の学校教育が、指示に従う「よい子」を「おとなしい子」を「問題のない子」を「文句をいわない子」を作る場になってしまっている気がする。」・・・これは、おかしい、是正すべきだと是々非々で議論を進められる生徒を育成していかなければいけないと強く思う。



〇2回目のプロジェクト会議を経て、3回目のプロジェクト会議を9月1日15時00分から個別学習室Bで実施した。以下にその時の会議録を示す。

※前回の議論を受けて、以下のように改定内容の確認を先に行った。

(1) 靴下の規定について

①色……黒、紺、灰色、白

②その他…基本は無地とし、ワンポイントは可とする。

「派手でないもの」という文言を削除

(2) 靴

①体育の授業に使用できる運動靴とする。

白を基調とするを削除

(3) 登下校の服装について

①登校は原則として制服とする。ただし、下校は制服か体操服を選択する。特別日課や強風の場合は、体操服の指示がある。また、登校時に雨や風の強い場合は、体操服での登校を認める。

(4) リボンやネクタイをつけたいという意見に対して

・制服のオプションとして、リボン、ネクタイが可能であるかどうか、業者に聞いてみることとなった。もし可能の場合、登下校や授業はリボン、ネクタイをつけることは可とするが、行事については、リボン、ネクタイを外すこととする。(ただし、入学式については、リボン、ネクタイをつけてもよしとする)これらは、リボン、ネクタイを買わない家庭への配慮である。

(5) ベストについて

①気温に合わせて、紺色、黒色、白色、クリーム色、茶色、深緑色などのベスト、セーターを着用可とする。

1 議論されたこと

(1) 服装に関する「中学生らしい」という文言について

「中学生らしい」という表現が抽象的でわかりにくく具体的でないため混乱をまねる。その前にある文章の「公の場にふさわしい」という文言があれば、学習の場にふさわしい服装となるため、「中学生らしい」という文言は削除する。

(2) 頭髪について

上記の理由で、頭髪についても「中学生らしい」という文言を削除し「学校生活に支障をきたさない頭髪とする。(パーマ、染色は禁止)」とする。

(3) 体操服について

夏期は、かぜによる体調不良を除いて半袖・ハーフパンツとする。冬期は、自分の判断で体操服の上下を着用する。

※土日・長期休業中の部活動は体操服を基本とするが、部で統一したトレーニングウェア、ユニフォーム、ウインドブレーカーを着用してもよい。

(4) 登下校について

①は上記に示す通り

②寒さが厳しい時期(12月～2月)は、自分の判断で防寒具を着用してもよい。

削除

(5) 持ち物について

・補助バックは、ナップランドに入りきらない場合は、派手でない補助バックを使用する。

あいまいな表現なので削除する。

理由：現在使用している補助バックは、小学校の修学旅行で使用したものがほとんどであり、色を指定すると、改めて購入しなければいけないため、色の指定をやめ、現在使用しているバックを継続して使用できるようにしていく。

・キーホルダーの規定はそのままよい。

(6) 欠席・遅刻・早退について

・そのままの規定でよい。

(7) 校内での着替えについて

・そのままの規定でよい。……ただし、ジャージは体操服という表現とする。

※男子更衣室の「選択教室A」にカーテンがないのは、如何なものか？是非、カーテンをつけてもらいたい。……<この後、2学期からカーテンが設置された。>

(8) あいさつ・マナーについて……一部の意見「心通う」という表現はいるのか？

・そのままの規定でよい。

※ただし、教師側からこの項については、削除したい内容がある。

(9) 校舎・校具の使い方について

・そのままの規定でよい。

(10) 休み時間の過ごし方……一部の意見として昼休みをもう少し長くしてほしい

・そのままの規定でよい

(11) 放課後の生活について

・そのままの規定でよい

※ただし、教師側からこの項については、削除したいと考えるが

2 その他

当初、プロジェクト委員から集めた意見の中で、検討しより良い回答がなされていなかったものに、「私服」の取り扱いがあった。そこで、私服について課題を提示したところ、6名中5名が、制服で学校生活を送ることについて、特別、課題を持っているわけでもないし、逆に、私服となった場合、どのような服をチョイスするかという問題で、毎日ストレスを抱えなければならなくなるため、私服での登校は、やめてもらいたい。という意見が6分の5であった。唯一1名、1年生が、自分は私服での登校がいいと思う。儀式などの時は制服に着替えるという方法もとれるので、私服で登校も考えてもいいかと思う。とのことだった。ただ、他の生徒から、そのようになると、制服を着る機会が減り、費用対効果がなくなってしまうと反対の意見が出された。そこで、教師側から、私服について否定的な理由が、チョイスするセンス、あるいはコーディネートすることに自信がないということであるが、社会に出た時、それは必要な資質ではないか。中学校でその資質を向上させることから逃げるのであれば、いつその資質を磨いていくのか。という質問をしたところ、確かにそれは言える。……がしかし。毎日。ということであつ

たので、教師側から、3年生の委員に「では、修学旅行の時だけ私服にする」という案ではどうかと提案をしたところ、「是非、実現してもらいたい」とのことであったので、今後、3年部の中でこの点について議論をしてもらい結論を出していく。なお、2年や1年の委員からも、その案に賛成したい。1,2年生の間で、服をチョイスするセンス、コーディネートセンスを勉強して、3年生の修学旅行の時に表現する。そんな風に考えていきたいとの意見であった。

＜12月の修学旅行では、1日目は見直しをした制服を着用し(リボン、ネクタイ)、2日目は私服となった。＞

3 今後の予定

- (1)スラックスとリボン、ネクタイの試着の日を生徒が案を作る。試着する部屋は個別学習室Bを使用する。(なお、試着の日には、静岡新聞が取材に来る。試着後の様子を集会ルームで撮影する)
- (2)次回9月8日(水)15:00～は、豊根中学校の2年生(新生徒会)と「校則の見直し」について遠隔(学習)交流をzoomで実施する。
その際には、各委員がそれぞれ制服、校則の見直しされたものについて、役割分担して、豊根中学校に説明をした。



○ 10/6、10/14、生徒総会、生徒集会での押え

下記は生徒総会や生徒集会で、生徒会長から全生徒に投げ掛けられた内容。

○今回の「制服・校則の見直し」で視点として進めてきたことや、話し合いの中でこれを大切にしていかなければいけないことが明確になったので、最初に生徒の皆さんはその内容については理解を深めて欲しい。

1 「制服・校則の見直し」の視点としては、生徒が生きづらさを感じている規則などについては積極的にそれを解消していくようにした。

2 見直しの際に、全生徒が今後、理解し意識を高めていかなければいけないことは、「今回、生徒自らが見直しを行ったように、自分たちで作ったルールであるからこそ、**生徒自身がルールを守る意識をしっかりとっていくこと**」また、「中学生らしさ、派手でないもの」などの抽象的な言い回しは削除しましたが、大切なことは、「**生徒一人一人が自分自身で正しい適切な判断ができるようになること**」です。また、その中で、「**判断に困ったり、生きづらさを感じている場合は、生徒の中で話し合いを持って解決をしていく、見直しを図っていくこと**」が大切だということです。

○ 以下は 9/24 プロジェクト会議の記録を示す。

・委員から今までの話し合いの経過や内容の説明が最初にあった。

<意見など>・・・それを受けてプロジェクト委員に意見を求めた。

3 年Aさん・・・今までこのような「校則を見直す」などの活動はなく、その活動が実際に進められ、原案ができていくことはとても素晴らしいと感じた。是非、今後もこのような活動を大切にしていけるといいと感じた。

3 年Bさん・・・自分も市村さんと同じに感じました。

○その他の委員についても推進委員の方から質問したり、教師の方からファシリテートして議論を活性化した。その結果以下のような意見が出された。

・靴下の色は、色指定をなくすのではなく、選択肢を増やす方法をとったが、それはなぜですか？

<回答>靴下は、教室へ身に付けてくるものであるため、とんでもない色のものを付けてくると、学習の雰囲気壊し、学習に支障をきたす恐れがあるため、今までよりも選択肢を増やしてそのような問題が起きないようにするための案とした。

・ただ、マフラー・手袋などは派手でないものとあるが、靴下は派手でないものから選択肢を増やし、マフラー・手袋は派手の色でないものとして残すのは矛盾していないか。

<回答>その通りだと思います。この派手でないものの指定を削除したい。そして、靴下は色指定をして、マフラーや手袋は色指定を削除するのは、マフラーや手袋は、教室で学習をするときに着用するものではなく、学習に支障をきたす恐れはないため。

・キーホルダーの指定があるのは、なぜ？

<回答>自分のものと他人の物を区別するためです。

・キーホルダーは 1 個でないといけないのですか？3 個ではだめですか？なぜ、3個ではだめですか？

＜回答＞理由は見当たりません。この問題も、「学校に不要物を持ってこない」という大原則をそれぞれの生徒が正しく判断できれば、いらない規則だと思います。そのため、この規則も削除します。

前提となるのは、常識的な数とか、色とか高価でないものとか、自分でしっかり選択できる判断力を持ちましょうと生徒自身(プロジェクト)が呼び掛けていくことが大切だと思います。そして、そうでない人が出てきたときには、その人と話し合っていくことが大事だと考えます。

・校則にはないのですが、ヘアピンや髪を縛るゴムさらには、カチューシャなど、口頭で、黒や紺と言われてきていましたが、それはどうですか？(シュシュも同様に)

＜回答＞規則にないものであるので、自らが適切に判断して付けてくれば良いと思います。ただ、それについては、黒や紺でないといけないと思込んでいる人もいるので、色が決められているわけではなく、自分で正しく判断することが大事だと伝えていきたいと思います。

・ヘアピンやゴムなども色を自分で正しく判断することだということですが、先ほど出た靴下の色と矛盾するところがあるような気がしますが

＜回答＞確かにその通りです。自らが適切に判断していくことができれば、靴下の色を指定する必要はないと思います。無地でワンポイントという条件だけでいいと思います。

○最終的に大切なことは、「常識的な、色や形、持ち物を自分たちで適切に選択できる判断力を持つようにしようと、生徒自身で啓発していくことが大事」また、「もし、人に迷惑をかけるという問題や生きずらさの課題が出てきた場合は、生徒自身が働きかけて話し合い解決していくことが大事」ということとです。

会の終わりに、CさんやDさんに、感想などを聞いてみたところ。

Cさん・・・「十分意見はいえた？」という質問に対して「十分言えました。」と応えてくれました。

Dさん・・・「会合の感想はどう？」という質問に対して「こんなに校則の見直しが進んでいるとは思いませんでした。」と応えてくれました。

両名には、家に帰って、考えてみたときに意見が出てくるようなら、遠慮なく、生徒会長に言いましょと伝えておきました。

また、最初に1年生のEさんに「来年度も、見直し作業を取り組んでみたいか？」聞いたところ、是非したいとのことだったので、「生徒から主体的に取り組んでいくようにしてください」と伝えておきました。

○生徒総会で扱われた「制服・校則の見直し」の検討会について報告する。

生徒総会の後半で行われたが、最初に、推進委員のメンバーが今までの経緯と校則見直し案を提案。その後、質疑応答となったが、質問したのは、3年生のAさんだけだった。

Aさん:「男子の頭髪規定について」「眉毛にかからないなど」の規定があったが、それは、「学校生活に支障をきたさなければ、長髪でもいいのか?」

この回答として、生徒会長から「自らの適切な判断が大切だと思います。学校生活に支障をきたさないように適切に考えて判断してもらいたいと思います」

その後、質問はなく、感想を聞いていった。

Bさん(2年):「中学生らしい」など抽象的な表現が多い校則が、分かりやすい校則になったと思います。この校則であれば、はじめての人でも分かりやすいと思いました。また、プロジェクトが行ってきた校則の見直しは大変いい取り組みだったと思います。」

Cさん(3年):「私が中学校に入学した時、中学校の校則に生きづらさを感じました。しかし、今回の校則の見直しを通して、それを解消するように校則が改正されました。これからは、この校則を守りながら、みんなでいい学校を作っていけるといいなと感じました。」

Dさん(1年):「中学校に入学した時に、中学校の校則については違和感を感じました。ただ、その校則について、今回、見直しをし、自分でも納得できる校則になったことは大変良かったと思います。ただ、これから大切なことは、生徒一人一人が適切に選択する判断力を持つていくことだと感じました。」

以上、それぞれの生徒が、今回の「校則の見直し」でねらいとしているところを、理解し、自分の言葉で表現してくれたことは大変良かったと思います。

ただ、その他の生徒についても、是非、自分事としてこのことについての自分の意見を持たせる機会を持っていただけると感じました。

次回、10月14日の生徒集会の時には、ワークショップにして、それぞれ、今回の校則の見直しについての感想を語ってもらい、何か、今回の案で気づいたり、意見として出してもいいかなと思ったことを自由に出していってくれるといいと思います。